中学校便り　さくら

H28.4.9　No.1

嶺北中学校

発行元：中学校長

嶺北中学校　今年の合い言葉は「一流」！

希望に満ちた平成２８年度が始まりました。お子様のご入学・ご進級、おめでとうございます。

入学した１年生や新しい学年に進級した生徒たちは、喜びにあふれ、新たな出会いや新しい学習の始まり、新年度のスタートに心を躍らせていることと思います。

嶺北中学校の校長を務めています大谷俊彦と申します。５年目になります。学校便り「さくら」を通じまして、できる限り情報発信に努め、学校の様子や生徒の活躍ぶりを地域や保護者の皆様にお伝えしていきたいと考えております。どうかよろしくお願いいたします。

今年度の嶺北中学校の合い言葉は「一流」です。「一流の挨拶」「一流の表現力」「一流の行動力」を身につけ、「一流の学校」を目指したいと考えています。

中学３年生は残り約340日、２年生は約700日、１年生は約1060日の中学校生活です。毎日の授業、学習、部活動、友達とのかかわりなど、その一つ一つを大切に全力で取り組んでほしいと思います。そして、当たり前のことが当たり前にできるよう「凡事徹底（ぼんじてってい）」に努めていきましょう。

新しい１年生19名を迎え、全校生徒60名での出発です。保護者の皆様から信頼されるよう、心新たに教職員一同励んでまいります。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

平成28年度学校組織

校　長		大谷　俊彦
教　頭		豊永　浩幸
１年	担任	秋田　慶
	副担	土居　わかな
	学主	釣井　智和
２年	担任	岡　美和
	副担	濱田　淳一（指導教諭）
	学主	鍋島　史子
３年	担任	橋詰　美和
	副担	吉本　慶子
	学主	時久　崇
絆		臼杵　典昭
輝		西森　圭祐
翼		秦泉寺　優
養護教諭		押岡　美香
栄養教諭		横山　すみ玲（澳本由佳※）
栄養教諭		波内　舞子（大川村勤務）
総括主任		石田　裕一
主　事		大藪　雅子
支援員		島村　博仁
用務員		山本　公子
ＡＬＴ		ｱﾝｼﾞｪﾘｶ･ﾌｧｰｶﾞｿﾝ

※本務者は育児休業中です。

４月からの主な行事予定

日	曜	行　事　予　定
9	土	参観日・学力検査・PTA総会・歓送迎会
11	月	集合写真撮影・身体測定・中高対面式
12	火	心臓検診（１年）
14	木	尿検査・中高合同職員会（生徒は５限後放課）
15	金	尿検査・町内教職員研修会(生徒は５限後放課)
16	土	香長地区ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ春季大会
17	日	香長地区ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ春季大会、兼山廟大祭（吹奏楽部）
18	月	交通安全教室
19	火	全国学力・学習状況調査（３年）
20	水	１年ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｷｬﾝﾌﾟ（室戸）～22日まで
23	土	県ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ春季大会・県ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ春季大会
24	日	県ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ春季大会・県ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ春季大会
25	月	家庭訪問（東部北岸・本山）
26	火	家庭訪問（吉野小校区・本山）
27	水	家庭訪問（東部南岸・本山）
2	月	代休（４月9日）
6	金	新歓ピクニック
7	土	県ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ春季大会
8	日	県ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ春季大会
9	月	内科検診
10	火	内科検診
11	水	浦臼中来校（交流会）・PTA役員会
12	木	歯科検診
13	金	第１回実力テスト（３年）
14	土	土長南国支部総体

【学校便りNo.１返信欄】　　氏名（　　）

H28.4.13　No.２

中学校便り　さくら

嶺北中学校
発行元：中学校長

「嶺北スピリット」を意識して！

嶺北スピリット
れ 礼儀　ほ 奉仕
い 意欲　く 工夫

今年も継続して、「嶺北スピリット」を行動規範としての学校スローガンに掲げ、全校一丸となって取り組みを進めていきます。

- れ（礼儀）…あいさつ、マナー、服装、言葉遣い
- い（意欲）…学習意欲、積極性、チャレンジ精神
- ほ（奉仕）…思いやり、優しさ、気遣い、郷土愛、ボランティア
- く（工夫）…アイデア、発想、新しいやり方

始業式の話　合い言葉は「一流」です！」

いよいよ今日から平成２８年度がスタートします。新２年生、新３年生に進級された皆さん、進級おめでとうございます。

４月は，学校や役所をはじめいろいろな所がスタートする月です。そして新学期は，決意や希望が高まるときでもあります。

このあとの入学式には、新しい１年生が入ってきます。みんなで、「嶺北中学校へようこそ」という温かく優しい気持ちで、そして一流の笑顔で迎えてほしいと思います。

３月の終業式に、イエローハットの創始者である鍵山秀三郎さんの「三つの幸せ」の中で「してあげる幸せ」が最も大切だという話、そして、「自分もあんなすてきな先輩になりたい」と憧れ、尊敬されるような先輩になってほしいということを皆さんに伝えました。尊敬され、信頼され、愛される先輩とは、自分に厳しく人に優しい先輩です。どんな時でも協力を惜しまない先輩です。どんな時でも話を聞いてくれる先輩です。今日はそのような気持ちをもって新入生を迎えてほしいと思います。自分が入学したときの緊張感、期待感、不安感などを思い出し、どのように新入生を迎えるのか、一人一人がしっかりと考えてほしいと思います。

ところで、３年生の皆さんは、義務教育最終年度を迎え、自分の得意なところを自分で理解し、自分で将来の生き方を構想し、自分で高等学校や職業の情報を整理し、自分に一番適した進路を選択し決定する学年となりました。高校受験という、誰もが経験する人生最初の試練が待っています。

２年生は、新入生を直接応援する学年であり、特に後半からは学校行事や生徒会活動などで嶺北中学校を担う学年となりました。

２年生の皆さんも３年生の皆さんも、勉強面でも生活面でも、嶺北中学校の大黒柱として、持てる力を精一杯発揮できる努力をしてほしいと思います。嶺北中学校の素晴らしい雰囲気がいつまでも続くように、皆さん一人一人が、何ができるかを考え、仲間と相談し、できることから取り組んでほしいと思います。

今年度の合い言葉は、去年から継続して「一流」です。「一流の挨拶」「一流の表現力」「一流の行動」ができるよう、自分自身を磨き、さらに成長してほしいと思います。

最後に、卒業式でお話しした、花の詩人　星野富弘さんは、「大きなけがをした後に思うことは、血液型が違うように、人はそれぞれ速さの違う時計を持っているような気がする。父からもらった私の時計は、少しゆっくり動いているのだと思う。」と話されています。また、童謡詩人　金子みすずさんは、「私と小鳥と鈴と」という詩の中で、「みんなちがって、みんないい」と言っています。これは、一人一人がそれぞれに光輝いている大切な存在だということです。人それぞれの生活や考え方、成長の度合いや生活環境は違います。一人一人、それぞれできることやできないことに違いがあります。男と女、大人と子ども、青年とお年寄り、勉強の得意な人と苦手な人、運動が得意な人と不得手な人、歌が上手な人と不得手な人など、いろいろな人がいます。それは、個性であり、特性であって、決して人間としての価値を決めるものではありません。本校では、「絆」「輝」「翼」の三つの特別支援学級を設置し、一人一人の個性や特性に応じた教育を進めていきます。

私たち嶺北中学校は人数では６０人、６学級の小さな学校ですが、考え方や思い、行動力や活動ではどこにも負けない「一流」の学校をめざしましょう。先生方と一緒に今年一年がんばっていきましょう。よろしくお願いします。

【学校便りNo.２返信欄】　　氏名（　　）

中学校便り　さくら

H28.5.6　　No.３

嶺北中学校

発行元：中学校長

１年生　コミュニケーションキャンプを終えて

４月20日（水）～22日（金）まで、国立室戸青少年自然の家において、中学校１年生の集団宿泊学習「コミュニケーションキャンプ」を実施しました。

このキャンプの出発式で、「コミュニケーションキャンプ」という意味を説明し、「言葉には、『やろう』『はい』『がんばろう』といったポジティブな気持ちになる言葉と、『えー』『なんで』『できない』といったネガティブな言葉がありますが、このキャンプでは、ポジティブな言葉でたくさんコミュニケーションを取ってください。」という話を生徒たちにしました。

２日目、私も室戸に行って１年生の活動に参加したのですが、１年生の口から「がんばろう」「ありがとう」といった仲間を気遣うポジティブな言葉を聞き、安心したことでした。さて、１年生の皆さん、この３日間どうでしたか？１年生にとっては、中学校という新しい環境のなかで、緊張の連続だったと思いますが、このキャンプを終えて、友情が深まり、中学校生活への自信もふくらんだことと思います。このキャンプが始まる前と、３日間寝食を共にした後の１年生のクラスの雰囲気を比べると、仲間意識も一層高まり一段と成長したように感じました。

キャンドルファイア

飯ごう炊さん

学級旗作り

【生徒感想】

○コミュニケーションキャンプでは、仲間とのつながりや行動力など嶺北ＡＣＴ（アクト）のキーワードになることを学びました。この体験で学んだことをこれからの生活に生かしていきたいです。

○私はこのコミュニケーションキャンプを終えて感じたことがあります。一つ目は、人に「ありがとう」の気持ちを持つことです。二つ目は、「協力」です。班での話し合いに積極的に参加できるようにがんばりたいです。

バドミントン・ソフトボール・バレーボール部　春季大会　頑張りました！

【バレーボール部】４月16日・17日：香我美中学校

○予選リーグ　嶺北中　０－２　鏡野中

嶺北中　０－２　香我美中

○トーナメント　１回戦　嶺北中　０－２　鳶ケ池中

【ソフトボール部】４月23日：春野グラウンド

○１回戦　嶺北・大豊町・北陵中　２－５　池川中

【バドミントン部】４月23日・24日：春野体育館

○男子団体戦　１回戦　嶺北中　２－１　城西中

２回戦　嶺北中　０－２　土佐中

○女子団体戦　１回戦　嶺北中　１－２　香長中

兼山廟　春の大祭に吹奏楽部が参加しました。

４月17日（日）に兼山廟において、春の大祭が行われました。兼山廟とは帰全山公園内にある時の宰相であった野中兼山を祀っている神社で、春秋の年２回その名を冠した祭りが行われており、春の大祭は本山町の花まつりと合わせて行われています。

大祭では、毎年、嶺北中・高の吹奏楽部が演奏会を行っており、こうした活動は地域の皆様から高く評価されています。例年天候に恵まれないことが多いのですが、今年は何とか屋外での演奏会を実施することができました。演奏後には、会場からアンコールの声が上がるなど、演奏者と観客が一体となったアットホームで気持ちよいコンサートでした。感動を届けようとする部員のみなさんの熱い思いが伝わるすばらしい演奏でした。

【学校便りNo.３返信欄】　　氏名（　　）

中学校便り　さくら

H28.7.13　　No.4

嶺北中学校

発行元：中学校長

「アクティブ・ラーニング」の視点による授業改善

本校では、昨年度、高知県教育委員会から「探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業」の研究指定（３年間）を受け、新しい学習指導要領が目指す「生徒が主体的・協働的に学ぶ授業」「探究的な授業」の実現に向け、「アクティブ・ラーニング」の視点で、「教え」から「学び」へと授業の質的向上に取り組んでいます。簡単に言うと、教師による一方的な講義形式の授業から脱却しようという取組です。

１学期は、５月31日（火）と６月20日（月）に、県内の小・中・高等学校から多くの先生方に集まっていただき、公開授業研究会を開催しました。

５月31日は、１年生の「英語」の授業でした。この授業では、「聞く人の印象に残る魅力ある自己紹介をしよう」という課題に取り組みました。タブレットで自分の話している姿を録画し、友達の助言や動画から客観的に自分を振り返ることで、「印象に残る魅力ある自己紹介」を考えるという授業でした。単なる自己紹介とは違い、「魅力ある自己紹介とは？」「印象に残る自己紹介とは？」という難題にもかかわらず、果敢に挑戦している生徒の生き生きした表情が印象的でした。

1年 タブレットを使って自己紹介の練習

６月20日（月）は、1年は「美術」、2年は「理科」、３年は「総合的な学習の時間」の公開授業を行いました。

１年の「美術」の学習課題は、「自分の思いを色に込めてあらわそう」。タブレットで予め撮影しておいた風景写真と自分の描いた絵を見比べ、グループの友達からアドバイスをもらいながら、効果的な表現方法を探るという授業でした。これまで多く見られた個人がひたすら描き続けるという美術の授業ではなく、タブレットを活用し、話し合いの場面を効果的に位置付けるなど、この授業には多くの工夫が盛り込まれていました。

2年 ホワイトボードを使った話し合い

２年の「理科」の学習課題は、「動物と植物の細胞のつくりの特徴を見つける」。観察結果を基に、動物と植物の細胞の共通点と相違点を見つけ出し、その理由を考えるという授業でした。ホワイトボードを活用したり、話し合いの場面を効果的に位置付け、共通点と相違点を自分の言葉でまとめさせるというレベルの高い授業が展開されていました。

３年の「総合的な学習の時間」の学習課題は、サニーマート販売に向けて「嶺北ならではの商品の良さは何か考えよう」。取材結果を前時にXチャートにまとめたものを活用し、その商品の良さをサニーマートの店長にどう説明したらよいか、どのようにプレゼンにまとめたらよいかを考える授業でした。思考ツールやパソコン、グループの話し合いや発表など、生徒が主体となって楽しそうに授業に参加している姿に心を打たれました。

3年 パソコンを使ってプレゼン作成

両日とも、授業の後、本校の全教職員と当日授業参観していただいた方々を交えて、授業について研究協議を行いました。研究協議は、「ワールドカフェ」というワークショップ形式で実施したことで、参加者からたくさんの意見をいただくことができ、充実したものとなりました。ご指導・ご助言いただいた課題を、今後の授業改善に役立てていきたいと考えています。

本校の研究も２年目。最近、私が日々授業を参観して嬉しく思うことがあります。それは、本校では、公開授業研究会の授業だけでなく、日常の授業において、ホワートボードやワークシート、タブレットやパソコン、電子黒板などのICT機器が上手く活用されていること、また、生徒の話し合いや生徒による発表や説明が当たり前のように行われているのです。昨年度から取り組んできた成果が垣間見られます。授業改善が着実に行われ、授業が日々進展、変容していることを喜ばしく思います。

ワールド・カフェ形式による研究協議

「アクティブ・ラーニング」による授業改善と言っても、要は、生徒たちに「わかる楽しい授業を提供すること」に尽きるのです。そのためには、生徒の皆さんの頑張りも必要です。

私たち嶺北中学校は人数では小さな学校ですが、「授業ではどこにも負けない」という自覚をもって、先生方と一緒に頑張っていきましょう。よろしくお願いします。

【参加者の声】

○子どもたちが素直で、落ち着いて学習できています。話し合いやICT活用なども効果的に行われていて、今後参考にしていきたいと思いました。
○研究協議で意見交換したことで「アクティブ・ラーニング」についての理解を深めることができました。
○「総合的な学習の時間」の学習計画は、地域の特性を生かしていてとても参考になりました。
○「ワールドカフェ」で協議したことで研究協議に深まりを感じたし、様々な意見を聞くことができました。講師の先生の的確なアドバイスで、探究の道筋が見えてきました。
○昨年から何回か見させてもらっていますが、子どもたちの成長に驚きました。
○授業改善に取り組んできたことで、子どもたちに力がついてきている場面が見られました。
○「探究的な授業」とはどういうものか学ぶことができました。

【学校便りNo.4返信欄】　　氏名（　　）

中学校便り　さくら

H28.7.19　No.5

嶺北中学校

発行元：中学校長

「オペラ公演」中学２年生　本当に頑張りました！

嶺北中でオペラ上演

本山町　生徒も歌や踊りで参加

【嶺北】中学生に文化芸術に触れてもらおうと、オペラの上演活動をしているNPO法人「ミラマーレ・オペラ」（横浜市）による公演事業の一環。同NPOは今月から9月まで、兵庫県や四国4県の小中学校を巡回して行われた。全校生徒や町本山の嶺北中学校で、本山小の児童、地元住民ら約100人が臨場感のある歌声や演奏に聞き入った。

文化庁の文化芸術体

嶺北中学校の生徒も出演したオペラの舞台（本山町の同校）

いる。

太平洋戦争中と現代の新潟県が舞台の「てかがみ」を上演。戦地で日本人から米国人軍医に贈られた手鏡が、55年の時を経て日本に戻ってくるストーリーで、国境や時代を超えた普遍的な人間愛を全2幕で描く。

生徒らはバイオリンやチェロなどの生演奏や、出演者の伸びやかで迫力ある歌声に圧倒されながら鑑賞。NPOの関係者から事前に歌唱、演技指導を受けた2年生14人も舞台に立ち、クライマックスで歌や踊りを披露した。

出演した田村夢叶（ゆめか）さん(13)は「すごく緊張したけど、実際にやってみると楽しかった。プロの人たちの演技はすごかった」と話していた。（山田浩也）

本校では、今年も「基礎学力の向上」と「表現力の育成」の二つの柱で日々教育実践に努めています。

この事業は、本校の「表現力」を更に一段高い位置に引き上げ体と考え、プロの方に来ていただき、生徒たちに「本物」の迫力、「一流」の表現力に触れてもらいたいと考え企画したものです。

中学２年生は、この日のために約１か月前から時間を有効に活用しながら練習に励み、当日の本番に臨みました。シャイでおとなしい２年生が大丈夫だろうかと少し心配もしていましたが、本番では役者さんの迫力に押され、吹っ切れたように、大きな歌声で堂々とした演技を披露し、オペラを盛り上げてくれました。

演技終了後、生徒会長の久保寛大くんから「本日はありがとうございました。僕たちは一流の表現力、一流の学校を目指して頑張っています。今日の皆さんの臨場感溢れる一流の演技からたくさんのことを学びました。この学んだことをこれからの学校生活に役立てていきたい。」というお礼の言葉が述べられました。

【出演した２年生の感想】

○本番では、プロのオペラの人たちのお陰で、あまり緊張もせず、歌ったりおどったりすることができました。生で見たプロの人の声や演技はすごいと感じました。良い経験ができたし、嶺北中学校の一流の表現力にも一歩近づけた気がします。（矢野蒼真）

○音楽の授業や放課後練習をし、本番を迎えた日は、朝から心臓がドキドキしていました。しかし、いざステージに上がると、緊張感が消え、楽しさがこみ上げてきました。最初は乗り気じゃなかった私が、最後は楽しいと思えたことに自分でも驚いています。（藤本弓奈）

【学校便りNo.５返信欄】　　氏名（　　）

中学校便り　さくら

H28.7.20　　No.6

嶺北中学校

発行元：中学校長

1学期終業式の話「三年先の稽古」

　この１学期を振り返り、良かったことをいくつかお話します。
　最近、お客さんや地域の方から、「嶺北中学校の生徒が良く挨拶してくれる」「朝早くから走っている姿を見ると、本当に中学生がよく頑張っている」「学校がとても落ち着いている」「テレビでも見たけど、中学生の表情がいい」といったお褒めの言葉をいただくことが多くなりました。皆さんの頑張りを地域の方や外部の方がしっかりと見て評価していただいていることにとてもうれしく思います。
　また、22日からの高知県中学校総合体育大会に、バドミントン部とソフトボール部が出場します。県大会に出られる喜びを胸に、「嶺北中学校の一員」として精一杯頑張って悔いの残らない戦いをしてきてほしいと思います。
　次に、今日は、長い夏休みに入る前の１学期の終業式ですので、「努力」ということをテーマに、皆さんにお話したいと思います。
　皆さん、「三年先の稽古」という言葉を知っていますか。この言葉は、相撲の世界ではよく使われる言葉で、「今日、明日とか一週間くらいやったって力はつかない。毎日毎日稽古することによって三年くらいたってようやく稽古の貯金ができて、本当の相撲の力がついてくる」という言葉です。
　今、皆さんは、一日一日を大切に一生懸命に取り組んでいることと思いますが、そのことに加えて、三年先を考えて取り組んでいくことが大切だということを表しているのです。３年生は、今進路決定の真っ只中にあり、高校に入るという目先のこともちろん大切ですが、それに加えて、高校に入ってからの三年後の姿を思い描いて、今の自分を見つめ直してほしいと思います。１・２年生も目先のことに目を奪われて右往左往するのではなく、三年先を見据えて今の生活を見つめ直してみてください。当然のことですが、三年先のことを考える前に、今の現状をがむしゃらに精一杯やり抜くことが前提となってきます。
　さらに、相撲界には「一日サボれば自分にわかる。二日サボれば師匠にわかる。三日サボればお客にわかる」という言葉もあります。サボっている姿は、先生や親からはよく見えるものです。今のままの自分で良いか良くないかは、自分自身が一番わかっているはずです。三年後の自分の姿を思い浮かべて、今の生活で改善できることは、この長期の休み中を使って、早いうちに改善していきましょう。
　自分を変えるには、勇気と努力が必要です。先日の三者面談で、先生や保護者の方から言われたことに素直に耳を傾け、皆さんが自分自身をしっかりと見つめ直し、三年先の自分を考えられるような力を身につけ、一学期を締めくくってほしいと思います。
　長期の休みです。一日、二日、三日とサボらない強い気持ちをもってください。また、普段できないことにも挑戦するくらいの心に余裕を持って、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。

「MIRAIノート」の活用　素敵な語録ができました！

　嶺北中学校では、学校の学びと社会を繋げるツールとして、昨年度から「知のツールBOX『MIRAIノート』」に取り組んでいます。
　これは、生徒が学校生活や家庭生活において、「この言葉は大事だから残しておきたい」「この学習は大切だから覚えておきたい」「この行事を通じて、自分はこんなに成長した」といったことを、日ごろから付箋に書いて情報を収集し、それを整理・分析し、最後に言葉としてまとめ・表現していくという取組です。
　昨年度の３学期には、松岡修造語録にならい、付箋の言葉を活用して「嶺北語録を作ろう」という学習を行いました。松岡修造に負けない素敵な語録ができましたのでいくつか紹介します。

◇限界という言葉などない。限界というから限界なんだ。（夢叶）
◇入部という種をまき、練習という水をやり、優勝という花を咲かす。（夢叶）
◇努力せずに成功すると思うな。悔しさが次の成功につながるんだ。（楓）
◇一人で解決しようとするな。みんなで考えろ。（陽菜）
◇お前が何気なく持っているそのペンに、お前の人生がかかっている。（愛美）
◇最高の自分に、最高の一日を！（龍仁）　　◇できるはず・・・できるんだよな。（駿斗）
◇どんなに小さなことでも、自分自身が誇りに思えばそれは誇りだ。（果穂）
◇何回失敗してもいい。その中で一度でも成功すればいいのだから・・・。（静）
◇下を向いて泣くな！上を向いて泣くな！前を向いて笑え！（寛大）
◇風は何処にだって、誰にだって吹いてくる。（洸太）　◇笑えば、きっといいことがある。（ひな）
◇あなたがそれを信じるか信じないかで、真実にもなりうそにもなる。（汐梨）
◇美しく最後まで飾りつける暇があるなら、最後まで美しく生きようじゃねーか！（佑一朗）
◇成功から学ぶことはある。失敗から学ぶことはもっとある。（佑一朗）
◇昨日の自分を越えろ！昨日の自分より上に立て！（美穂）

【学校便りNo.６返信欄】　　氏名（　　）

中学校便り　さくら

H28.9.1　　No.７

嶺北中学校

発行元：中学校長

２学期始業式の話　「チーム嶺北」

元気な顔がそろいました。夏休みは楽しかったですか？今年の夏休みは、暑い日が続きましたが、体調を崩したり怪我をしたりした人はいませんか？

１学期の終業式で「３年先の稽古」という話をしましたが覚えていますか。そのなかで、皆さんに先を見据えてその目標に向かって努力することの大切さをお話しました。皆さんは、夏休みの間に何を３年先の目標に掲げたでしょうか？

今日は、「チーム嶺北」というお話をしたいと思います。

さて、この夏休みは、４年に一度のオリンピックが地球の裏側リオで開催され、世界中から多くのオリンピック選手が集まり、たくさんの競技が行われました。皆さんも、日本選手の素晴らしい活躍に、深夜までテレビの前に釘付けになっていたのではないでしょうか。そんな中、41個（金12、銀８、銅21）という過去最多となるメダルを獲得するなど、日本の選手たちの活躍は目を見張るものがありました。本当にによく頑張りました。

皆さんはどのシーンが一番印象的に残っていますか？日本選手の活躍において、私が特に印象に残ったことに「チームワーク」の素晴らしさがあります。陸上男子 400 mリレーの銀メダルなどは最も象徴的です。個人の走力では 太刀打ちできなくても、バトンパスなどの創意工夫とチームワークで、全体のタイムを驚異的に短縮しました。また、バドミントン金メダルの高橋・松友ペアは、それぞれの長所を生かすことでお互いを補い合っています。「実力的には世界一じゃないですが、二人の連係は世界一だと思っています」と高橋選手は言っています。他にも体操男子の団体金メダルや卓球の男女団体、全階級でメダルを獲得した男子柔道、金メダルラッシュの女子レスリングなども「団結力」「チーム力」があったから、その結果につながっています。このように、チームとなることで普段以上の能力が発揮できる、チームだからこそ味わえる感動がある、まさにチーム力の大切さを教えてくれた大会でもあったと思います。体操で個人総合連覇した内村選手も「北京、ロンドンとメダルを取ってきて今回の団体メダルが一番重たい。僕たちの頑張りというよく分からないものも入ってるので倍以上に感じている」と、チーム力に言及しています。

大会の大きさこそ違いますが、夏休み中には、ソフトボール部やバドミントン部の県体、バレーボールの秋季大会、バドミントンの学年別大会。吹奏楽部の県吹奏楽コンクールなど多くの大会が行われました。なかでも、ソフトボール部は四国大会を勝ち上がり、全国大会出場を果たしました。運動部の３年生にとっては、中学校最後の大会となる人も多いようですが、本当に最後までよく頑張り、素晴らしい試合でした。また、北方領土視察研修や、平和の日龍馬フォーラムに嶺北中学校の代表として参加した生徒の皆さん、本当にお疲れ様でした。県外の学校や他校の生徒との交流を通じて、勉強になることも多かったと思います。そこで学んできたことを、学校生活に生かして２学期も頑張ってほしいと思います。

楽しかった夏休みも終わり、いよいよ今日から２学期です。２学期は１年のうちで一番長い学期でもあり、夏、秋、冬と３つの季節を感じることができます。なかでも「秋」は、「読書の秋」「運動の秋」「芸術の秋」と言われ、勉強や運動も一番集中してできる季節と言われます。

いよいよ今日からは、中高合同体育祭に向けての本格的な練習が始まります。パネル係や応援リーダーは、夏休み中から、各色に分かれ、体育祭の成功に向けて準備を進めてきました。これもまさに「チーム力」です。昨年まで、体育祭の練習を通してチームが一丸となって取り組んでいく姿、その中で助け合い励まし合う姿、そして喜び合う姿など、多くの感動的な場面を何度も目の当たりにしてきました。まずは、体育祭を契機に嶺北中の良き伝統を受け継ぎながら、チーム力を一層高め、一人一人が成長しくことを期待しています。

12月には、学習の集大成としての「さくらプロジェクト発表会」があります。その発表会に向けて、1年生では、フィールドスタディーやしゃくなげ荘での勤労体験、2年生では北海道浦臼町への修学旅行、3年生ではサニーマートでの販売研修と、「さくらプロジェクト」の中核となる体験学習も行われます。まさに学年の「チーム力」が試されます。そうして高めた学年としての「チーム力」を、「さくらプロジェクト発表会」では、学校としてのチーム力まで高めてほしいのです。1年、2年、3年という個々の「１＋１＋１＝３」から、オリンピックの男子リレーチームのように創意工夫しながら、「１＋１＋１」が４とか5になるよう、「チーム嶺北」としての「チーム力」を高めてほしいと願っています。

チーム力が大事なのは教職員も同じです。我々教職員集団も「チームとしての意識」を一層高め、保護者や地域の方々のお力も借りながらチーム力を発揮し、課題の解決に向けて取り組んでいきたいと思っています。より良い学校にしていくためには、生徒の皆さんも我々教職員も、最終的には「優しさと厳しさ」が必要と考えています。「チーム嶺北」として心が一つになることが何よりも大切です。かけがえのない仲間とともに、オリンピックで頑張った「チーム日本」のように、より高い目標を立てて、それに向かって「チーム嶺北」として全員で精一杯頑張っていきましょう。

【学校便りNo.７返信欄】　　氏名（　　）

中学校便り　さくら

H28.12.22　　No.８

嶺北中学校

発行元：中学校長

2学期終業式の話　「言葉の力」

今年も残すところあと９日になりました。皆さんにとってこの一年はどういう一年だったでしょうか？

私にとっては、「探究的な授業づくり」研究指定校として２年目を迎え、県外の学校からも資料請求や学校視察があるなど、本校の研究が多方面から大きく評価され、忙しい中にも、あっという間の一年だったような気がします。さらに、今年は嶺北中学校にとっても、そうした学校の取組について、県内の小中学校３校にだけ与えられる「坂本教育賞」という大きな賞をいただいたり、ソフトボール部が全国大会に出場するなど、とてもいい年だったと思います。

さて、先日の生徒会役員新旧交代式で、前生徒会長の久保寛大くんが、現阪神タイガース金本監督の名言、「貧血になって半人前、ゲロをはいて一人前」という言葉を全校生徒に紹介し、努力の大切さについて話してくれました。この言葉を聞いて、一流の人の目に見えない努力を知り、自分もゲロをはくくらいがんばろうと思った人もいたことでしょう。

寛大君が紹介した名言のように、「言葉」には大きな力があります。日本には昔から「言霊（ことだま）」と言う言葉があり、言葉は魂を持っていると信じられてきました。ですから、私たちの口から出た言葉は、周りの人にも大きな影響を及ぼすのです。

彫刻家で詩人の高村光太郎さんは、「きれいだなあというと景色がなおきれいになる」と言ったそうです。妻の智恵子さんが、「東京には本当の空がない。本当の空が見たい」と言ったことで、ふるさとのきれいな空を見せようと二人で旅に出ます。そこで、きれいな風景に出会い、感動してこの言葉を発したそうです。言葉は、周りの人にもその感動を伝えることができます。又、自分の声が自分の耳に返ってきて、全身でその意味を感じ取ることもできます。

このように言葉には不思議な力があります。思っているだけでは曖昧だったことが、表現することで確かなものとなってきます。だからこそ、温かいポジティブな言葉が必要なのです。ポジティブな言葉は、温かで前向きの雰囲気を作り、反対にネガティブな言葉は冷たく嫌な雰囲気を作り出すものです。

高村光太郎さんの言葉を、「頑張るぞというと、なお頑張れるようになる」「話が上手くなったねと言われると、もっと上手く話したくなる」「嶺北中は一流だねというと、もっと一流の学校になる」などと、この言葉を置き換えてみるとわかると思います。こうしたプラスの発想で物事を考えられるようになれば、物事はさらに良い方向に向かっていきそうです。

たった一つの言葉で、人は嬉しくなったり悲しくなったりします。明るく前向きな感情を言葉に表し、みんなが楽しい雰囲気の中で日々過ごせるようにしたいものです。

これは目標でも同じだと思っています。私は、「一流の表現力を身につけよう」「凡事一流の学校」「学力で秋田・福井を抜く」ということを、いつも口に出すように心がけています。そうすることで、言葉の力により、少しずつ目標に近づいていくと信じています。

「有言実行」と言うように、なりたい自分、目指すべき目標を言葉にしていくことこそが、夢に近づく第一歩かも知れません。是非、日ごろから目標なども言葉にして口に出すよう心がけてみましょう。

校内マラソン大会結果　（12月20日実施）

【男子】

１位	３年	下田	蘭丸	15分19秒
２位	３年	池内	龍仁	15分56秒
３位	１年	高橋	優斗	16分07秒
４位	３年	高石	定	16分24秒
５位	３年	久保	寛大	16分27秒
６位	１年	原	駿斗	16分43秒

【女子】

１位	２年	後藤なつめ		12分39秒
２位	２年	大川	夏音	12分49秒
３位	３年	田岡	汐梨	12分49秒
４位	１年	澤田	鈴音	12分50秒
５位	１年	渡邊	帆音	12分50秒
６位	１年	下田	杏乃	14分24秒

よいお年をお迎えください。

いよいよ年の瀬も押し詰まり、一年を振り返ることも多い時期になってまいりました。年末年始は何かと気ぜわしい日が続きますが、子どもたちにとって、日本古来の伝統文化に触れたり味わったりするうえでは絶好の機会とも言えます。折に触れ、年末やお正月行事の本来の意義について、子どもたちに教え伝えていってほしいと願っています。

嶺北中学校では、二学期には、体育祭やさくらプロジェクト発表会、修学旅行などの大きな学校行事もありましたが、保護者の皆様、地域の皆様のご支援・ご協力により、無事成功裡に終えることができました。本当にありがとうございました。

来たる平成29年が皆様にとって幸多き年になりますようお祈り申し上げ、年末のご挨拶とさせていただきます。よいお年をお迎えください。

【学校便りNo.８返信欄】　　氏名（　　）